

ワールドカップ全戦に出場してみても、レース以外でも様々なドラマ、戦いがありました。その中から今回はロシアでのワールドカップ関連の話題をお届けします。



エントリー

ワールドカップの申込はインターネットの公開情報に従い自身で行ってきたが、ロシアへのエントリーはそう簡単ではなかった。

締切が一週間以内に迫っているにもかかわらず、大会ページのどこを探してもエントリー用紙がない。すでに公開されているブリテン2には大会ページにあると書かれているが見当たらない。直接主催者にメールで尋ねるも、全く返信がない。このままだと、「エントリーができなかったため、ワールドカップ欠場」というとても情けないことになってしまう。日本のみんなに会わせる顔がなくなってしまう。

締切日はフィンランドワールドカップ開催中。なんとしてもフィンランドへの出発前にエントリーを行なおうと、必要と思われる情報を一方的に主催者へメールで送信。ブリテン2に記載されている情報で参加費を海外送金した。

ロシアチームもフィンランドへ来ていたため、ロシアの監督に尋ねた。ロシア側から私宛にメールが来るとのことだったが、結局音沙汰なし。

ブリテン2での締め切りがとっくに過ぎてしばらくしてから、ブリテン3が公開された。すると締切が延長になっているのではないかと。結果的に遅れることなくエントリーできたが、主催者のずさんな対応は好ましくない。

ビザ

ビザ発行手続きは、スウェーデンに

あるロシア大使館で行った。審査がスムーズに進んでも10日以上かかるようだ。1月、2月、私は遠征続きで、パスポートを10日以上大使館に預ける余裕は無い。ロシア側に招待状を督促したが12月中には届かずビザ取得ができなかった。

残るチャンスはたったの一回。ラトビアワールドカップからロシアワールドカップまで二週間。もし書類が何かの不備があり発行に手間取ったりすると一巻の終わりである。ビザ、パスポートがない場合はどうあがいてもロシアに行けるはずがない。

必要な書類はラトビア遠征前にすべてそろえ、帰宅した翌日に申請した。あとは二週間以内にパスポートが戻ってくるのを天に願うばかりとなった。

結果的に私はロシアに行くことができたので、ビザも間に合ったわけだが、ビザを入手したのは出発を翌日に控えた金曜日。郵便局まで受け取りに行ったのだが、あと一日でも遅かったら、郵便局は休みになり間に合わなかった。ビザ申請に際して、出国予定を2月15日としていたが、届いたのが17日。つまり大使館側では全くと言っていいほど、出発予定日を考慮してくれない。

現地滞在

今回ワールドカップが開かれた町IVANOVOはモスクワから約300km。バス移動途中のトイレ休憩は女性も含めて野外(トイレはない)であることがあるので、注意したい。コンビニなどもほとんどないので、食料や飲み物を持ってバス移動に備える必要がある。

滞在先のホテルは非常に古い部屋で、シャワートイレは共同。トイレトペーパーがないこともあった。あっても日本のような白く柔らかな紙ではない。

食事はロシア風の料理で、ヨーロッパの料理とも違った。最大の問題点は量が少ないこと。ここはダイエット施設かと思うほど盛りが少ない食事で、アスリートには絶対に足りていなかった。私は毎回、盛り付けのおばちゃんに「もっと、もっと」というジェスチャーで大盛りにしてほしいとのアピールをしたが、それでもやっと普通盛りに近いだけだった。

この状況をあらかじめ予想していたのか、スウェーデンチームは大量のパ

スタ(乾麺)を持参していた。毎回、食事のたびにそれをゆでて食べていたので、私も何度かかわけてもらい、餓えをしをのいだ。

ロシア全体が少食というわけではないだろうが、こんなこともあるのだと事前に知っているだけで全く違う。調味料(ケチャップやドレッシング、ジャム)などを持参している選手も多く見受けられた。

送金

送金はすでにフィンランド遠征前に済んでいるはずであったが、実はこの問題が今回のロシア遠征一番の山場となった。遠征前から解決のめどが立たない問題に気が滅入っていたが、現地では大喧嘩にまで発展した。

結局スウェーデンに帰国してからも、銀行に足を運び、ロシアの主催者とメールでのやり取りを行っているが、3月現在まだ解決していない。

スウェーデン帰国後

ロシアから帰国して、私は熱を出して寝込んでしまった。高熱は数日続き、週末に予定していた世界最大最長のレース、ヴァーサロベットは欠場することになり、非常に悔しい思いをした。体調が完全に回復するまでは二週間もかかり、シーズン中にぽっかりと穴が開いてしまった。アスリートとして自己管理ができていない、と自己嫌悪に陥ったりもしたが、その後スウェーデン国内でのレースに出場したとき思いもよらない事実を知った。

なんとロシアに遠征したスウェーデン選手のほぼ全員が遠征後、私のような病気にかかったという。中には三週間経ったそのときですら、まだトレーニングが再開できない状態の選手もいた。これは何か悪いウィルスにでもかかったに違いない。恐るべし、ロシア。

(堀江守弘)



フィンランドのマッティ選手と堀江選手